

今年度最後のごちゃっとはいかがだったでしょうか。42,195歩をだれも達成できないという、なんともしまらない終わり方になりました。とほほ。

さて、2015年度最初のごちゃっとは、昨年度みんなが投稿してくれた**読書カード**を紹介します。あなたの心にぐっとくる1枚はあるでしょうか。お楽しみに！

2015年3月1日発行

発行：名古屋市鶴舞中央図書館

Tel 052-741-9811

Fax 052-733-6337

<http://www.library.city.nagoya.jp/>

# ごちゃっと

ちなみに・・・  
読書カードって  
こんなもの

図書館にインターンシップで来た  
学生さんが作ってくれました。

タイトル「世界征服」は可能か？	
著者 岡田 司夫	出版社 筑摩書房
了こませ漫画でみんなに登場する「世界征服」 おれたちのヒーローに憧れたことはありますか？ しかし、「世界征服」といって具体的に何をやる 何をしたら世界を征服したことになるのか。自分だけが 知るに足るのか？この際、徹底的に考えよう	
役立ち	度 ★★

いきなりの無茶ぶりにも快く応  
えてくれました。ありがとう～  
就活がんばれ！！

タイトル Amazonで変なものを売ってる	
著者 谷山 浩子	出版社 イースト・プレス
付いた枚数のミカドと11111。杯のミカドは本日、通販サイト 「Amazon」で変な商品を見つけた。その商品は不思議な 世界へと繋がった。通販を通じて起るファンタジー世界 そして誰も予想できない驚愕のラスト……！	
ファンタジー	度 ★★★★★

紹介されている本は2冊とも  
図書館にあります。貸出中の  
ときは予約してくださいね。

### ◎編集後記◎

▽こだま号ながら、新幹線のグリーン車に乗る。普通車とのシートの座り心地の違いに愕然とする (sh) ▲クラシックのコンサートに行きました。意外と寝ない自分を発見しました (苔)  
▽最近、歩きながら寝てしまう事態が発生 (汗) ぶつからないよう周りには十分気を付けます (-o-) (千雪) それでは、次回の「ごちゃっと」もお楽しみに～



その1  
**特** 目指せ！42,195歩!!

その2  
**集** 数の本

【特集 その1】

目指せ!

4

2

,

1

9

5

歩!!

「ごちゃっと」メンバーが挑戦!



歩数計を付けて  
準備万端!  
(イメージ写真)

「ごちゃっと」37号の特集(番外編)で、「山」に登頂した3人。その影響なのか、最近どうも体が重いのです。まさかこれは「冬太り!？」さらに、お正月に撮影した写真を見て、ぷっくりした自分の顔にショックを受けている千雪です(汗)  
これではまずい、まずすぎる!と反省していた矢先、近所に掲示された交通規制の看板を発見。「3月8日は名古屋ウィメンズマラソン…そうだ!42.195「キロ」は難しくても、42.195「歩」ならできるかも!」と思い立ち、苔やshとともに「ごちゃっと」の企画として挑戦することにしました。

メンバーで決めたルールは以下のとおり。

- 一、42,195歩以上を目指すこと
- 一、計測期間は1月下旬の6日間で統一すること
- 一、勤務時間中の歩数のみを計測すること  
(出張はOKだが、通勤時間は含まない)



階段の上り下りも  
軽やかに♪  
(イメージ写真)

このルールを読んだ3人の反応は、

sh:「ふふふふふふ」(不敵な笑みは自信の表れ?)

苔:「さっそく歩数計買ってきます~」(早くもやる気満々)

千雪:「この週は休みが多いから、達成できるか心配」(不安でいっぱい)

と、それぞれ。抱える気持ちは違いながらも、42,195歩を目指して足を進めた3人。さて、その結果は…???

結果発表

残念ながら  
誰も達成できず!

1位…苔	40,334歩
2位…sh	37,220歩
3位…千雪	21,759歩

もっと  
がんばり  
ましよう

### 苔の釈明

日によって歩数が激しくちがっていて興味深い。むだに動き回っている日もあれば苔のようにその場から動いていない日もある。これを機に、自分という人間をもう少し研究してみようという気になった。※注:断じて歩数計の故障が原因ではありません。

### shの自己分析

毎日1万歩以上歩いているので楽勝かと思ったが…そのほとんどは通勤で稼いでおり、勤務時間中は予想よりは歩いていないことがわかった。(イスに座って作業というのも結構ある)通勤の歩数も含めれば余裕でクリアしているということは言い訳しておきたい…すみませんでした。

### 千雪の反省文

最大の敗因は、この週に限って出勤日が少なかったこと。3日間の勤務で42,195歩を達成するにはかなり難しいことだと痛感しました。また、期間中に出張があったので徒歩で往復したり、8階から階段を降りるなど努力してみましたが、挽回できなかったのが残念です。ちなみにぷっくり顔は少し戻った気がしますが、体重は全く変化しませんでした(涙)

というわけで、残念ながら誰も42,195歩を達成することができませんでした。何ともふがいない結果でごめんなさいm(\_)\_mしかし、今回の挑戦を通して、「歩く」ことに意識を持つことで、新たな発見ができました。また、歩いている途中でアイデアが思い浮かんだり、悩んだときの気分転換にもなりました。気になる人はぜひお試しあれ♪

ところで、マラソンの距離はどうやって測っているの?答えは特集2で!



『さまよえる本（きみ）に結末を  
—ウィルブック・ハンターあるいは甘い憂鬱—』  
秋杜フユ／著 集英社

湖のほとりで美しい青年のあやつる水に飲み込まれそうになった村娘エステル。彼女を助けたのはその朝会った2人の来訪者だった。彼らは、未完の本が強い思いで魔法になってしまったなれの果てニウィルブックを討ち鎮める、ウィルブック・ハンター。彼らとの出会いが、迷い悩んでいたエステルの生き方を変えていく。(弓)



『少女と傷とあっためミルク  
心ない言葉に傷ついた君へ』  
春名風花／著 扶桑社

0歳で芸能界デビュー、9歳でツイッターを開始した「はるかぜちゃん」こと春名風花さんは現役の中学生。ネットへのひどい書き込みに傷つきながらも、いじめや差別をなくしたい、みんなで楽しいネット社会をつくりたい、と発言を続けます。彼女の考えすべてに共感できなくても、最後にはまっすぐすぎる「はるかぜちゃん」を応援しているかも。(鯛)

# 新刊案内

『僕は小説が書けない』  
中村航／著 中田永一／著  
KADOKAWA



生まれつき、なぜだか小さな不幸を引き寄せてしまう光太郎。高校に入学するも、先輩からストーカーまがいの勧誘を受け、廃部寸前の文芸部に入部することに。さらに、学園祭で部誌を発行せねば廃部にすると生徒会から通告され、光太郎もオリジナル小説を書くはめに陥る。人気作家2人によるラブあり、笑いあり、涙あり、の共作青春小説。(鯛)

『ゆるい生活』  
群ようこ／著 朝日新聞出版



10代の頃から、へそまで届くおばさんパンツを愛用して生きてきた著者。ある時、不調を感じて漢方薬局に飛び込む。この本は、食べ物や生活習慣を見直し、体質改善に取り組んだ6年間の記録。

東洋医学をオススメするでもなく、西洋医学を否定するわけでもない。かわいいゆるゆるのブックデザインは、意外と若者向け？(秋)

『世界の城塞都市』 千田嘉博／監修 開発社

外敵から都市を守り、攻撃の拠点とする、それが城塞都市。人工的な壁や堀だけでなく、崖や水によって外界から隔てられた世界各国の城塞都市。つつい魅了されてしまうのは、その景観の美しさのみならず、人々が都市を守るために施した工夫に驚かされるから。(秋)



『たったひとつの「真実」なんてない』  
森達也／著 筑摩書房

ラジオ、テレビ、新聞、本、雑誌、インターネットなど、私たちのまわりにはたくさんのメディアがあります。それらはほんとうのことを伝えているの？「ねつ造」などと言われるように、そもそも嘘ばかりなの？

社会に生きるために必要なメディアリテラシーについて考えてみましょう。(弓)